

肺炎球菌 予防接種のお知らせ

令和4年度
対象者

- ① 接種日当日に沖縄市に住民登録がある方
- ② 肺炎球菌予防接種(23価)を
これまでに一度も受けたことがない方

上記①②すべてに該当し、対象年齢に当てはまる方で、
肺炎球菌予防接種を希望する方は、全額公費負担で予防接種を受けることができます。

対象年齢：今年度 65歳・70歳・75歳・80歳・85歳・90歳・95歳・100歳の方

※60歳以上65歳未満で、心臓・腎臓・呼吸器の機能、またはHIVによる免疫の機能に重度の障害がある方(身体障害者1級程度の方)も対象となります。

◆肺炎球菌ワクチンは、肺炎球菌による肺炎などの感染症を予防し、重症化を防ぐものです。
(※ただし、すべての肺炎球菌による肺炎を予防するわけではありません。)

実施期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日まで

実施場所：指定医療機関(裏面をご覧ください)

接種料金：自己負担なし



要確認!

- ・本人の意志と責任で希望する場合のみ、肺炎球菌予防接種を受けることができます。予防接種を受ける前に医師から十分に説明を聞き、理解・納得したうえで接種を検討してください。
- ・本人より接種の意思確認ができない場合は、予防接種を受けることができません。
- ・公費対象期間外に接種した場合は、自己負担(公費対象外)となります。

《肺炎球菌による感染症について》

肺炎球菌は、人の鼻やのど、日常生活の場に存在します。普段は病気を起こさないことが多い細菌ですが、何かのきっかけで肺、髄膜(脳やせき髄を包む膜)などの体の内部に入りこむと、中耳炎、気管支炎、肺炎などや、**生命にかかわる感染症(重い肺炎、細菌性髄膜炎、菌血症、敗血症など)を発病する場合があります。**

この細菌は、人の身近にいる菌で、ヒトからヒトへ飛沫感染する(咳やくしゃみなどで口から出た菌でうつる)ため、いつ、誰がかかるかわかりません。

日常でかかる肺炎の原因菌で最も多いのは「肺炎球菌」です。

お問合せ:沖縄市役所 こども相談・健康課 予防係

電話 098-939-1212(内線 2232・2233)



《肺炎球菌ワクチンについて》

肺炎球菌には90種類以上の血清型があり、定期接種で使用される『23価肺炎球菌ワクチン』はそのうちの23種類の血清型を予防の対象としたワクチンです。この23種類の血清型は、成人における侵襲性肺炎球菌感染症の原因の約64%を占めるという研究結果があります。

肺炎球菌ワクチンは健康な人では、少なくとも接種後5年間は効果が持続するといわれています。再接種(任意接種)にあたっては、過去5年以内に接種した方は、初回接種のときよりも局所反応の程度と頻度が高いことから、必要性を慎重に考えて十分な間隔をあけて接種する必要があります。

《予防接種を受けることができない方》

- (1)明らかに発熱のある方(37.5度以上)
- (2)重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- (3)肺炎球菌ワクチンに含まれる成分によって、アナフィラキシー(接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応)を起こしたことがあることが明らかな方
- (4)その他、予防接種を受けることが不適当な状態であると医師が判断した方

◎肺炎球菌予防接種(23価)をこれまでに受けたことがある方は公費接種の対象になりません。

《予防接種を受ける前に、担当医師とよく相談しなくてはならない方》

- (1)心臓血管系・腎臓・肝臓・血液の病気などの基礎疾患をお持ちの方
- (2)予防接種をした後、2日以内に発熱のみられた方および全身性発疹等のアレルギーを疑う症状が出たことのある方
- (3)今までにけいれん(ひきつけ)を起こしたことがある方
- (4)今までに免疫不全と診断されたことがある方、または近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- (5)薬や食品で皮ふに発疹が出るなど、アレルギーを起こしたことがある方

《予防接種を受けた後の注意》

- ◆接種後30分間は、医療機関で様子を見ましょう。まれですが、この間に急な副反応が起こることがあります。
- ◆接種後は、注射した部位を清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすらないように気をつけましょう。
- ◆接種当日は、普段と同じような生活をして差し支えありませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

《予防接種の副反応》

「副反応」とは、予防接種後、一定の期間におこる身体的な反応のことです。接種後24時間以内は、副反応の出現に特に注意する必要があります。

肺炎球菌予防接種の副反応としては、注射した部位が赤くなる・腫れる・熱感・痛む・しこりができるなどの局所反応や、筋肉痛・発熱・悪寒・頭痛・全身のだるさなどの全身的な反応がみられることがありますが、通常1~2日でおさまります。

重大な副反応として、アナフィラキシー様反応(呼吸困難・血管浮腫・じんましん・発汗など)、血小板減少、知覚異常、ギランバレー症候群などの急性神経根障害、蜂巣炎・蜂巣炎様反応(発赤、腫れ、痛み、発熱など)注射部位の壊死・潰瘍などの報告があります。

接種後、高熱やアレルギー、けいれんなどの症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受け、こども相談・健康課予防係までご連絡ください。▶定期の肺炎球菌予防接種の後に起きた健康被害が、予防接種によるものと国で認定された場合は、予防接種法に基づく補償を受けることができます。(ただし、指定医療機関での接種に限ります。)